

【生徒主体の活動～体育祭の練習】

体育祭と文化祭を合わせて学校祭とし、生徒会主催の取組みにしたことについては、以前の「校長室から」でお知らせしています。これ以外にも、校則の見直しなどいろいろな機会をとらえて生徒が主体となるように教育活動の在り方を改善してきました。

こういった取組みは、指導する教師側も実際に活動する生徒たちも、そのねらいを共有することが大事です。さらには継続し続けていくことが大事です。

体育祭の学年競技の練習がありました。もちろん競技のために整列したり競技場所に移動したりすることや実際に競技をやってみることなど、練習内容はある程度決まっています。前に出てマイクを持つのは生徒代表です。「移動を早くしてください。」「説明を聞いてください。」など、生徒の声がグラウンドいっぱいに響いていました。学年の先生からは、「説明が上手かったよ。」などの声掛けも見られました。

私はこの様子に実に心地よくなりました。というのも生徒の表情が生き生きとしているからです。

15年前、私がこの学校で勤務していたころの体育祭と言ったら、例えば開会式の練習では「動くな！」「声が小さい！」「たらたらと移動するな！」など教師の指導が前面に発揮されていました。またこのように少し強めの指導ができる教師が指導力のある教師として認識されていました。今考えると、強制的というか、はたして体育祭のねらいは何だったのかと疑問を持たざるを得ない出来事でした。それでは反発する生徒も出てきて当然です。反発しないまでも、ただ指示されてそれに従う生徒が多くなることは必然で、我々もそれを良しとしてきたのです。

生徒たちはこういった経験を通して、自分たちで物事を進めること、仲間と協力すること、集団で行動するために大事なことなど多くのことを学ぶはずで、学校祭とは、こういった力をつけるためにあるのです。

